



学校だより

希望を胸に未来へ前進する学校

校訓
自立
貢献
信頼

学校教育目標

- ・自ら学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・健康に努める生徒

令和8年8月31日 生徒数 911名



先は長いだから

校長 金子 二郎

夏休みが終わり子供たちの笑顔が学校に戻ってきました。部活漬けの日々、夏季講習に通った日々、家を離れて普段とは異なった日々、特別な出来事がなくともものんびりした日々。その経験が2学期を素敵な時間にしてくれるはずです。充実した2学期となるよう私たちも努めてまいります。保護者や地域の皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



さて、中学3年生にとって2学期は重要な時期です。卒業後の進路決定に向け、現実と向き合いつつ自らの意思で選択することが求められます。始業式に先行して、先週28日には第1回の南部校長会テストも実施されました。ただ、中学校卒業時の進路で人生の全てが決まる訳ではないことも事実です。内田 樹 神戸学院大学文学部名誉教授編集の「転換期を生きるきみたちへ—中高生に伝えておきたいたいせつなこと」(晶文社)の中で、コラムニストの故・小田嶋隆さんは、夢と職業に関して次のように述べています。

「現実の社会を見れば、多くの人々が、職業とは別のところに生きがいを見出している。(中略)職業に向かう姿勢は人それぞれだ。同じ人間の中でも時期によって変わる。仕事一辺倒の人間として30代を働き通しに働いた男が、ある日、突然やる気を失うこともあれば、いやいや勤めていた勤務先の仕事に、入社10年を過ぎてからようやく気持ちが乗ってくるタイプの会社員もいる。(中略)自分が何かに向いていると思いついて入っているその何かが、本当に自分に向いているのかどうかは、実際には誰にもわからない。(中略)13歳の段階の少年少女が、自分の得意不得意や、好奇心や、好き嫌いや、あるいは友達のマネやアニメの影響で、どんな職業に憧れるにせよ、その憧れは、どうせたいした現実的なお話ではない。3年後には、たぶん笑い話になっている。そういう、3年たってから振り返って笑えるみたいな憧れを持つのは大変に結構なことだ。というのも、憧れは、それに到達することによってではなくて、届かないことや、じきに笑い話になることによって、それを抱いていた人間を成長させるものだからだ。ただ、『この広い世界には、きっと自分に向いた仕事があるはずだ』という思い込みを抱くことは、夢を持つこととは違う。それによって人生の選択を狭めかねない。」自分の小中学校の卒業アルバムを見ると、将来の夢は「大企業のサラリーマンになってお金持ちになる」「お母さんになる」「家族と仲良く暮らしている」と、私自身も含め呑気な答えが少なくありません。必ずしも具体的な職業を夢としていたとは限りません。以来、長い時間が経っていますが、夢を実現した級友はむしろ少数です。でも夢が叶わなかったからといって、皆今が不幸せという訳でもありません。もちろん、安易に現実妥協することを勧めるつもりはありません。小田嶋さんの言う通り、チャレンジした先に笑って振り返ることのできる人生を歩むことができるのかもしれませんが。夢を目標に懸命に挑戦し続けることで、粘り強さなど人生を切り拓いていくために必要な力が身に付きます。かけがえのない人生。自分で納得のいく進路を選択できるよう願わずにはられません。



悩みは自分の心が生み出している幻である。現実を認めれば悩みはなくなる。現実を認めた上で、諦めるか、努力するかを選ぶだけのことなのだ (高木善之)